〈表紙〉

論文種別　　教育・研究活動記録

題目（和文・英文）

すべての学生が大学体育に参加できる学びの場を目指して

―聴覚障害学生を対象とした大学体育の教育実践記録―

University Physical Education for All Students: Educational Practices for Deaf or Hard-of-Hearing Students

全ての著者名及び所属機関（和文・英文）

向後 佑香・Yuka KOGO

１）筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

Research and Support Center on Higher Education for the Hearing and Visually Impaired, Tsukuba University of Technology

２）筑波大学人間総合科学学術院および鹿屋体育大学大学院体育学研究科・大学体育スポーツ高度化共同専攻

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, and Graduate School of Physical Education, National Institute of Sports and Fitness in Kanoya

連絡先（メールアドレス）　kogo@a.tsukuba-tech.ac.jp

〈本文〉

本稿は，筑波大学と鹿屋体育大学による博士課程・大学体育スポーツ高度化共同専攻の必修科目として開講された 2025 年度「大学体育論」全 10 回のうち，木内敦詞教授担当の 7～10 回目の授業で作成したティーチング･ポートフォリオ･チャート（栗田･吉田, 2021）およびその後にレポートとしてまとめたティーチング・ステートメントを整理し，教育活動記録として報告するものである。本稿では，東京都市大学 FD 推進センター（2020）「ティーチング・ポートフォリオ成果報告書」における都市大型ティーチング・ポートフォリオ（一般的にはティーチング・ステートメントに類型されるもの）における「はじめに，1.責務，2 理念，3 方法，4 成果，5 目標，おわりに」の枠組みとおおよその文字数に倣い，執筆する。以下では，ティーチング・ポートフォリオを TP，ティーチング・ポートフォリオ・チャートを TP チャートという。

はじめに

筆者は 2015 年 4 月より，筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター（障害者基礎教育研究部・聴覚障害教育実践部門）に助教として着任した。なお，本学は，聴覚・視覚障害者を対象とする我が国で唯一の大学である。学内では，主に，聴覚障害学生に対し，健康・スポーツ科目を中心とした教養系科目の授業担当をしている。本稿では，これまでの実践と博士課程での学びをふまえて, 自身の教育理念や指導方針, 成果と課題を整理し，今後の教育実践に活かすための省察としたい。

1. 責務

これまで担当した科目や教育活動は表 1 に示す通りである。本学では，健康・スポーツ教育科目として「健康・スポーツ A～C」（必修）と，「健康・スポーツ D」「アウトドアスポーツ」「スノースポーツ」（選択必修）が設置されており，卒業までに計 4 単位修得が求められている。これらの科目を通じ，学生が健康で安全なライフスタイルを理解し，実践できる力を養うことを目的としている。さらに 2022 年度からは日本パラスポーツ協会（JPSA）・初級パラスポーツ指導員資格取得が可能な「障害者スポーツ」という科目も開講された。また，本学の職務として特筆するのが，文部科学省認定「障害者高等教育拠点」事業であり，これは，本学がこれまでに蓄積してきた聴覚・視覚障害学生支援のための指導・支援ノウハウを全国の高等教育機関に提供する取組である。情報保障・語学教育など

に加え，聴覚障害学生への体育・スポーツ指導についても，障害特性に配慮した指導・支援に関する学外からの相談対応や，講習会開催等を担っている。

なお，本 TP では，教養科目として担当している健康・スポーツ教育科目について記載することとする。

＞表１　担当科目および教育活動一覧（学内）

＞図１　健康・スポーツ科目の授業概要

2.　理念

筆者の教育実践に対する理念としては，「スポーツが自己実現をするための一助となってほしい」という想いを持っている。大学体育は単なる運動の機会ではなく，学生が社会に巣立つ前に，多様な価値観や身体性と向き合う「最後の砦」としての意義をもつ重要な教育の場である。生涯にわたり心身ともに健康でいられること，そして自分に適した環境や方法で体育・スポーツを楽しむ力を身につけること，それらを支える学びを提供することこそが，大学体育の果たすべき役割であると考えている。

さらに，聴覚障害学生の支援に携わるようになってからは，こうした大学体育の意義や価値を，すべての学生が等しく享受できることの重要性を，これまで以上に強く意識するようになった。どのような背景や特性をもつ学生であっても，自身の身体と向き合い，仲間と協働しながらスポーツの楽しさや可能性を実感できる授業づくりこそが，自身の教育実践における信念の基盤となっている。さらには，デフスポーツやデフコミュニティなど，ろう者の文化や価値観を尊重することも，本学における大学体育の重要なミッションであると考えている。

＞図２　TP チャート

3.　方針

理念を具体化するために，授業実践における方針を大きく３つに整理した。それぞれの方針とその想いについて記述する。特に，方針２及び３については，本学の特性を強く反映しており，他大学支援としてもこれらの点を考えていくことが大切だと感じている。

方針１：生涯にわたって健康で豊かなスポーツライフを築くための土台づくり

学生一人ひとりが，生涯にわたって健康でいられるための知識と実践力を身につけるこ

とを目標としている。そのために，健康や体力に関する理論と実践を結びつけ，学生が主体的に「健康」について考え，運動の楽しさや面白さを実感できるよう配慮している。また，仲間との協力やコミュニケーションを通じて，協働することの喜びや学びを共有できるような学習環境づくりを大切にしている。

方針2：インクルーシブな大学体育の価値

すべての学生が，聞こえる・聞こえないに関係なく，大学体育に公平にアクセスできるように，「聞こえないこと」がバリアとならない学びの場をつくることを目指している。

方針3：デフスポーツを通じた多様なつながりの創出

聴覚障害学生が卒業後も自分に合った環境を主体的に選択し，社会とのつながりを築いていくためにも，デフスポーツやデフコミュニティなどのろう者文化との接点，あるいは社会に対して聴覚障害・デフスポーツへの理解を広げる場をつくること，大学体育を通じてそのような機会を提供することが重要であると考える。

4. 方法

授業の運営にあたっては，聴覚障害学生を含む多様な学生が在籍する本学の特性を踏まえ，すべての学生が等しく学びにアクセスできるよう，学習環境の整備と情報保障に重点を置いている。特に，本学に入学してくる学生のコミュニケーション手段は多様であり，手話だけを使う人，手話と口話を使う人，口話だけを使う人が混在している。また，聴覚障害に加えて，視覚・肢体・精神など他の障害をもつ学生も在籍している。以上を踏まえ，３つの教育方針に基づく具体的な実践方法を以下に示す。

方針１：生涯にわたって健康で豊かなスポーツライフを築くための土台づくり

- 体力測定や運動時心拍数の計測など客観的数値，測定値を活用する
- 様々な実技種目を取り入れ，運動の多様な楽しさを体感させる
- グループ活動やペアワークの機会を増やす
- 毎回の授業にふりかえりの時間を設け，自由に意見を述べる機会を保障する
- 発表や意見表明の場を積極的に設け，主体的な関与を引き出す
- 実技中は教員も学生と共に動き，スポーツを楽しむ姿を示す
- 教員は過度に介入せず，見守る姿勢。学生の自律的な判断と工夫を尊重する

方針２：インクルーシブな大学体育の価値

・ 視覚情報の活用（スライド，板書，配布資料，ホイッスルの代わりにフラッシュライトや旗の使用等）
・ 言葉のかけ方（手話，口話，ジェスチャー，口の動きが見えるようにはっきり・ゆっくり，簡潔にわかりやすい説明）
・ 情報が得やすい環境を整える（教師や板書が見えやすい馬蹄形の隊形，太陽の位置，照明位置やカーテンの利用，話す人は前に出る，騒音の排除等）
・ 伝えたことが理解できたかの確認をする。
・ 実技中に伝わらなかった内容は後で丁寧に補足する
・ 学生同士の意思疎通がスムーズに行えるようホワイトボードなどのツールを用いる
・ 学生の身体状況・運動経験の把握（安全面への配慮）

方針３：デフスポーツを通じた多様なつながりの創出

・ 授業中にデフスポーツの事例や取り組みを紹介し，理解を深める機会とする
・ 在校生や卒業生で活躍するデフアスリートを取り上げ，ロールモデルとして提示する
・ 魅力的な指導者を招聘し，多様な価値観や実践と出会う機会を提供する
・ 学生自身が，聴覚障害への理解を広める取り組みを行う場を創出する

5. 成果

昨年度実施された学生授業評価アンケートでは，すべての項目について肯定的な評価が得られている。特に印象的だったコメントを下記に提示する。また，「障害者スポーツ」の中で，学生が講師となりデフスポーツに関する出張講義を実施した際には，新聞等にも取り上げられ，社会的にも注目を集める機会となった。

【授業内容について】

・ スポーツについて学べるだけでなくクラスの人と交流できる良い機会でした。
・ （高校までの体育授業では）大人数で体育を受ける機会は少なかったが，チュックボールやバドミントンでは必ずペアやチームの仲間がいたため，様々な意見を交えながら積極的に動くことができた。
・ いろいろなスポーツを体験することができて本当に良かったと思う。すごく楽しかった。

・ スポーツは楽しいものだと感じることができたから。
・ 今まで聞いたこともないチュックボールを楽しくできたり，バドミントンを全力でプレイできた。また，座学で健康や体力づくりについての大切さを学ぶことができた。非常に楽しかった科目の１つ！！
・ 運動を通して仲間との交流を深めることが出来て良い経験になった。

【授業運営について】

・ 丁寧にわかりやすく説明してくれたから。
・ 授業資料が充実していたため
・ 手話の表現も大きく，みんながしっかり教師の方に注目しているかを確認してから説明を行なっていたため。
・ 褒めてくれたり，工夫するところとか教えてくれたから
・ 生徒と一緒にスポーツを楽しんでいる様子が多いので講義に対する熱意が伝わったから。
・ 先生と一緒に運動をする機会が多く，コミュニケーションも多くとることができた。

6. 目標

短期的な目標としては，博士論文執筆を通して「大学体育における聴覚障害学生支援」に関する専門性をより高めることが目標である。これまでの知見の整理に加え，国内大学の現状等を把握し，より良い今後の授業実践に結び付けたい。

中長期的には，日本における大学体育に関して，聴覚障害学生の支援モデルを構築・発信し，他大学支援にも展開していきたい。さらには，海外の大学における聴覚障害学生支援の現状を調査し，日本との違いや共通点を明らかにすることで，日本の大学体育や大学教育の質向上にも貢献したいと考えている。合わせて，本学の取り組みや教育成果について，実践報告等の執筆を通して形に残していきたい。

おわりに

筆者が本学に着任し，聴覚障害学生への体育・スポーツ指導に携わるようになって，今年で 10 年目を迎える。当初は手話もわからず，授業運営においても何が適切なのか迷いながら，とにかく前任者の真似をしながらのスタートであった。本学に着任する以前には，筑波大学体育センターにおいて研究員・特任助教として大学体育に関する研究に取り組ん

できたが，そこで得た知見は，現在の授業づくりや指導実践に大きく活かされている。

今回の TP チャートの作成を通じて，これまで点として積み重ねてきたものが線としてつながり始めた実感があった。自分が目指す授業の姿や理念が言語化され，今後の課題も明確になったことは大きな収穫である。本学には，聴覚障害学生支援に関する知見やノウハウが蓄積されており，それらをより体系的に活用することで，大学体育の可能性をさらに広げていけると確信している。さらに，博士論文執筆を通して，今後も教育実践と研究を相互に深めながら，より良い学びの場を構築していきたい。

文献

栗田佳代子，吉田塁，リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座，医学書院，2021.

東京都市大学 FD 推進センター，2020 年度ティーチング・ポートフォリオ成果報告書，https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2021/03/20210325-605c90e90d057.pdf, 2025.7.1.

表１　担当科目および教育活動一覧（学内）

	項目	概要
担当授業	健康・スポーツA	１年次・前期・必修
	健康・スポーツB	１年次・後期・必修
	健康・スポーツC	２年次・前期・必修
	健康・スポーツD	２年次・後期・選択必修
	アウトドアスポーツ	２年次・前期・選択必修
	スノースポーツ	２年次・後期・選択必修
	障害者スポーツ	３年次・後期・選択
	修学基礎	１年次・前期・必修
クラス担当	クラス担任	
	アカデミック・アドバイザー	
社会貢献活動（学内）	障害者高等教育拠点	他大学学生支援・相談・講習会開催
	地域貢献事業	障害者スポーツ教室・スポーツイベント

本学での授業概要

卒業要件として体育・スポーツ科目で**4単位**習得する必要あり

必修（3単位）1～2年

健康・スポーツA
体力測定・
健康や体力に関する講義

健康・スポーツB
チュックボール・バドミントン・
アルコールに関する講義等

健康・スポーツC
体力測定・フライングディスク
ショートテニス等

選択必修（1単位）2年

健康・スポーツD
ボルダリング・テニス
フィットネス等

アウトドアスポーツ
学外キャンプ実習
2泊3日*@茨城

スノースポーツ
学外スキー／スノボ実習
2泊3日*@新潟

選択（1単位）3年

障害者スポーツ
障害者スポーツに関する
講義・ホースセラピー・
スポーツイベント参加

**※初級パラスポーツ指導員
資格取得が可能**

図１　健康・スポーツ科目の授業概要

図２　TPチャート

専門名前	大学体育/向後佑香
作成目的	**聴覚障害学生を対象とした一般教養としての大学体育の授業改善**　大学体育研究 一部公開
感想	自分の授業の目標、そして現状、足りていない部分、今後やるべきこと等が明確になった。
日付	2025/08/01

責任

- 体育・スポーツ教育科目
  - ・健康スポーツA
  - ・健康スポーツB
  - ・健康スポーツC
  - ・健康スポーツD
  - ・障害者スポーツ
  - ・アウトドアスポーツ
  - ・スノースポーツ
  - シラバス
- 初年次教育
  - ・修学基礎
  - シラバス
- クラス担任
  アカデミックアドバイザー
- 学内委員会業務
  - ・FD/SD企画室
  - ・苦情相談窓口
  - ・聴覚障害系学生募集
  - ・編入学試験小委員会
  - ・各学科選考委員会
  - ・施設・設備管理WG
  - ・社会との共創WG
- 障害者高等教育拠点（他大学に在籍する聴覚障害学生支援/主に体育スポーツ分野）
- 体育施設管理業務
- 地域貢献事業
  - ・障害者スポーツイベント
  - ・障害者スポーツ教室
  - ・他大学講義
- 学外/学術・社会貢献
  - ・日本野外教育学会理事
  - ・日本ハンドボール協会デフハンドボール専門委員

理念

研究員/特任助教時代に**大学体育の意義**や価値を研究したり、**大先輩たちの考え**に触れる機会

過去に受講した大学体育授業を還暦近くになっても覚えていて、**生涯スポーツを楽しむ他分野の大学教員**の存在

スポーツが自己実現をするための一助となってほしい
★生涯にわたって心身共に健康でいられる。
★自分にあった環境や方法で体育・スポーツを楽しむことができる

目標

- 聴覚障害学生への大学体育に関するテーマで博士論文取得！
  →大学体育における聴覚障害学生支援の専門性を持って様々な業務に携わる
- 海外の大学体育における聴覚障害学生の現状を調査する

方針

- 自ら**健康でいられる知識/実践力**を身につけてほしい
- **仲間と協力**すること、共に活動する**楽しさ**を感じてほしい
- 学生の**興味関心**を引き出す
- 授業や運動に**主体的**に関わっている実感をもたせたい
- **運動の楽しさ、面白さ**を知ってほしい
- **聞こえないバリアをなくし**て大学体育の意義、価値を**すべての学生**が享受してほしい
- **自分にあった環境**を選択できるようになってほしい（**デフスポーツ**の理解・**デフコミュニティ**や地域とのつながり）

デフスポーツを通して人生を豊かにしている、スポーツを楽しんでいる尊敬する人たちの存在

方法

- 客観的な数値、測定値を用いる
  - 体力側的記録等
- グループ活動やペアワーク等を多用
  - 学生授業評価アンケート
- 教員があまり口を出しすぎない（なるべく任せる）
- 実際の体験を通して学ばせる・考えさせる
- 学生に意見を求めたり発表の場面を作る
- 学生と一緒に教師も動く、プレイする。
- 学習カードを用いて授業の感想を書かせる
  - 学習カード
- ふりかえり場面を設ける
- 魅力的な指導者を起用
- 情報を伝えやすい環境づくり（スライド使用、手話、板書、ジェスチャー等）
  - 授業評価アンケート
- 情報が得やすい環境づくり（見やすい隊形、まぶしくないように）
  - 授業評価アンケート
- 実技中に理解できない場面を夜の講義で補足
  - 授業評価アンケート
- デフスポーツの選手や素デフスポーツに関する取り組み等を紹介する、関わる機会を設ける
- （積極的に）デフスポーツの選手や素デフスポーツに関する取り組み等を紹介する、関わる機会を設ける

改善・努力

- 形成的授業評価の実施（課題活用）
- 博士課程の授業成果同期からのフィードバック
- TPチャート作成
- 博士課程への入学
- アウトドアスポーツ実習において授業形態の検討
  →宿泊型へ復活
- 障害者スポーツ
  学生参加企画の導入
  - レポート等

成果・評価

本学の授業を題材とした**実践報告を執筆**する！

- 健康スポーツA～D
  学生評価に肯定的なコメント多数（特に健康体力に関する理解、チームワークの向上等）
  - 授業評価
- 障害者スポーツ
  障害者スポーツイベントへ参加した学外者から学生を誉められた
  - 参加者アンケート
- 障害者スポーツ
  デフスポーツ普及に関する他大学講義が新聞等での取材を受ける
  - 新聞記事
- アウトドアスポーツ/スノースポーツ
  学生たちの楽しそうな様子
  後日、学生同士でサイクリングやスノーボードに行く
  - 写真記録、ふりかえりシート

© 2016 Kayoko Kurita